

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
普通科	1年	国語	現代の国語	必修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教材	「現代の国語」(大修館)				
	書いて覚えて実践する 高校生の語彙と漢字 ゴイカン (桐原書店)				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期テスト・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期テスト・小テスト、ワークシート、グループ活動、発表
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察、提出物

3 履修上および学習上の注意

<p>読書をこころがけ、積極的に論理的文章・実用的文章に触れるようにしてください。 積極的に各単元の言語活動に取り組むようにしてください。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	<p>○オリエンテーション① （使用教材、成績の付き方） （Chromebookの使い方）</p> <p>○文章の要点をつかむ 「水の東西」</p>	<p>【知】 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 【思】 文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確にとらえ、要旨や要点を把握している。</p>	<p>1</p> <p>読 5</p>
5	<p>○的確に伝える 伝わるように話す</p>	<p>【主】 積極的に、学習課題に沿って、具体や抽象、対比の関係をとらえようとしている。 【知】 話し言葉の特徴や相手に配慮した表現について理解している。 【思】 話し言葉の特徴を踏まえ、相手が理解しやすいように表現を工夫して話している。 【主】 口頭での説明を通して、話し言葉の特徴をふまえ、相手が理解しやすい表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>	<p>話聞 6</p>
6	<p>○意見を示す 意見を書く</p>	<p>【知】 文例および自分の作文において主張と根拠とを指摘できている。 【思】 論理展開を工夫し、読み手が理解しやすい文章が書けている。 【主】 意見文の相互評価および単元の総括をととして、学習の状況を積極的に把握しようとしている。</p>	<p>書 8</p>
7	<p>○論理を捉える 「動的平衡としての生物多様性」</p>	<p>【知】 主張と論拠などの情報と情報の関係や、推論のしかたについて理解している。 【思】 本文における情報の関係に注意しながら、内容や論理の展開について叙述をもとに的確にとらえている。 【主】 論理的な文章を読むことを通して、情報の関係や推論のしかたに注意しながら内容や展開を把握することに粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>	<p>読 5</p>
9	<p>【前期期末考査】</p> <p>○魅力的に伝える 魅力的な紹介文を書く</p>	<p>【知】 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 【思】 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 【主】 積極的に、学習課題に沿って表現の工夫をしたり、話したり聞いたりする活動を行い適切な評価を行おうとしている。</p>	<p>書 6</p> <p>書 6</p>
10	<p>○他者と交流する 状況に応じた通信文を書く</p>	<p>【知】 通信文に適した語彙を身につけ、使いこなしている。 【思】 目的達成のために媒体の特徴を生かした表現を考えて工夫している。 【主】 媒体ごとの体裁/特徴や適切な語彙を理解した上で、読み手の視線から最適な表現を試みようとしている。</p>	<p>読 5</p>
11	<p>○情報を比較する 「美しさの発見」について （脳は美をどうとらえるか）</p>	<p>【知】 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 【思】 目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 【主】 複数の文章を比較して読むことに意欲をもち、共通点や相違点をとらえようとしている。</p>	<p>話聞 8</p>
12	<p>○他者を動かす 資料を用いて発表する</p>	<p>【知】 話の効果的な組み立て方や接続のしかたについて、理解している。 【思】 提示する情報を取捨しながら資料を効果的に用いて、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 【主】 熱意をもって自分の考えを伝えるために、話の展開や構成を工夫したり、効果的に資料を用いたりしようとしている。</p>	<p>書 10</p>
1	<p>○主張を吟味する 文章を読み取って主張を書く</p>	<p>【知】 読み手に伝わりやすい主張の組み立て方について理解している。 【思】 読み手からの評価を踏まえ、自身の意見文の特長・課題を把握している。 【主】 意見文の振り返りおよび単元の総括を通して、学習の状況を積極的に把握しようとしている。</p>	<p>話聞 10</p>
2	<p>【後期期末考査】</p>		
3	<p>○考えを発信する 結論を出すために話し合う</p>	<p>【知】 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 【思】 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 【主】 結論を出すための話し合いの工夫について理解し、その後の学習活動や学校生活に生かそうとしている。</p>	<p>合計 70</p>

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1年	国語	言語文化	必修	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う</p>				
教材	<p>言語文化（大修館）</p> <p>九訂版 読解を大切に体系古典文法（数研出版）</p> <p>読んで見て覚える重要古語315 四訂版（桐原書店）</p> <p>基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版（桐原書店）</p>				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・小テスト・レポート・グループワーク
主体的に学習に取り組む態度	レポート・グループワーク・学習観察

3 履修上および学習上の注意

日頃から本や新聞を読むよう心がけ、積極的に文学作品に触れるようにしましょう。
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	【現代文】世界を見渡す窓	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	5
5	【現代文】文学の神秘	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 読書についての筆者の考えを読み取る (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	5
6	【現代文】羅生門	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 場面ごとの人物の心情の変化を読み取る (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	10
7	【古文】宇治拾遺物語	(知) 古文単語を習得する (思) 古文の仮名遣いや、古文特有の言い回しについて思考する (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	15
8			
9	【古文】徒然草	【前期期末考査】 (知) 古文単語を習得する (思) 作者が季節や景物を評する表現の特徴をとらえる (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	
10	【漢文】私たちと漢文 論語	(知) 漢文の基本的な語句・句形を理解する。 (思) 孔子等の名言に親しみ、現代との関わりについて考えを深める (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	5
11	【現代文】夢十夜	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 作品の表現に着目しながら読む (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	5
12	【現代文】青が消える	(知) 本文の漢字・語句を習得する (思) 作品が暗示しているものについて理解を深める (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	5
1	【古文】枕草子	【後期期末考査】 (知) 古文単語を習得する (思) 自然の情景に対する作者の感覚をとらえる (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	10
2	【古文】伊勢物語	(知) 古文単語を習得する (思) 歌に込められた登場人物の思いをとらえる (主) 主体的に課題に取り組んだ内容を学習履歴に記入する	15
3			
			合計
			70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1年	地歴公民	公共	必履修	3
科目の目標	<p>①知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>				
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・公共 P U B L I C (数研出版) 				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	現代の諸課題を捉え概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体的に活動するために必要となる情報を
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を元に多面的・多角的に考察・判断・議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	ワークシート、定期考査・小テスト、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	学習観察、ワークシート

3 履修上および学習上の注意

- ・「公共」は倫理、政治、経済、国際社会に分けられており、2～3年次の選択科目である「倫理」「政治・経済」の基礎となる科目です。
- ・「18歳で成人」となる皆さんは、高校生になったのをきっかけに、世の中の動きをニュースなどで把握したり、各国の文化や考え方の違いを理解し、社会

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	【知】 青年期の意義、思想や三大宗教の内容が理解できている。 【思】 自己形成の課題について考察できている。思想や宗教、文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 【主】 社会の一員としての自覚を深め、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方、日本の伝統思想や文化、外来思想から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。	12
5 6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	【知】 近世・近現代の思想内容、地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思】 先人の生き方を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 【主】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。	14
7 8	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	【知】 法などの社会規範の役割、民主政治のあり方、日本国憲法の三大原理の内容、日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 【思】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法における権利の保障と、他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。日本の平和主義のあり方の変化について考察できている。 【主】 民主政治が自らの生活とかわかっていることを理解し、社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	12
9 10	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 民主参加と民主政治の課題	【知】 三権相互の関係と役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】 行政機能拡大の是非、日本政治の課題と今後の見通し、地方自治の現状と身近な地域で行われている事例について考察できている。 【主】 裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。	14
11 12	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	【知】 企業や政府の役割、市場メカニズム、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあり方が理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状、契約の原則、労働問題や社会保障について理解できている。 【思】 現代の資本主義経済と市場メカニズム、GDPと豊かさとのつながり、景気の先行きと経済の動向について考察・判断できている。労働問題や社会保障について課題を発見し、解決の方法を考察できている。 【主】 経済社会に主体的に生きる一員として、新聞などで情報を集め、現状と今後の日本経済について見通しがたてられている。労働問題や社会保障の課題について主体的に追究できている。	23
1 2	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	【知】 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割、戦後の国際政治の流れ、国際社会における日本の役割、核軍縮への流れ、世界の紛争や人権問題について理解できている。貿易や外国為替相場のしくみ、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進む世界の現状が理解できている。 【思】 国連など国際機関の現状と課題、国際社会の諸問題について考察・判断できている。貿易や為替相場の変動、地域経済統合が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。 【主】 国際政治や国際経済の課題、平和と安全を維持するため何が有効なのか、グローバル化した国際経済について主体的に追究できている。持続可能な社会のあり方について主体的に追究できている。	19
3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	【知】 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 【思】 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 【主】 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。	11
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1 年	数学	数学Ⅰ	必履修	3
科目の目標	数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを利用する態度を育てる。				
教材	「高等学校 数学Ⅰ（数研出版）」				
	「教科書傍用 4プロセス 数学Ⅰ+A（数研出版）」				
	「短期完成 データの分析ノート（数研出版）」				
留意点				開講予定人数	必履修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数と式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

習熟度別クラス編成を行う。副教材を家庭学習で活用する。「短期完成・データの分析ノート」を、データの分析にて活用する。
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 数と式	<p>【知】展開や因数分解の計算を行うことができる。また、数の体系を実数まで拡張する意味を理解したり、数の概念に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思】式を、目的に応じて一つの文字に着目して整理したり、一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	19
5			1
6			1
	【前期中間考査】		
7	第2章 集合と命題	<p>【知】集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に使うことができる。</p> <p>【思】事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付けた上で、色々な事象や数学の概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	10
8			
9			1
	【前期期末考査】		
10	第3章 2次関数	<p>【知】関数の概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現する事の有用性を認識することができる。</p> <p>【思】2次関数の値の変化を考察することを通じて、関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	30
11			1
12			30
	【後期中間考査】		
1	第4章 図形と計量	<p>【知】鋭角での三角比の意味と相互関係について理解したり、鈍角まで拡張する意味と鋭角との関係を理解することができる。</p> <p>【思】三角比や正弦定理、余弦定理を用いて、平面図形や簡単な空間図形の計量に活用することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	1
2			
3			12
	【後期期末考査】		
	第5章 データの分析	<p>【知】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し分析を行い、データの傾向や特徴を理解することができる。</p> <p>【思】主張の妥当性について、実験などを通して得たデータを整理して判断したり、批判的に考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>	
			合計
			105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1 年	数学	数学A	必修	2
科目の目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教材	「高等学校 数学A（数研出版）」				
留意点				開講予定人数	必修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・単元テスト・小テスト
思考・判断・表現	定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表
主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題

3 履修上および学習上の注意

習熟度別クラス編成を行う。副教材を家庭学習で活用する。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4			
5			
6	【前期中間考査】		
7	第1章 場合の数と確率	【知】 集合の要素の個数に関する原則について理解している。 順列・組合せの意味を理解し、総数を求めることができる。 確率の意味や法則について理解を深め、ある事象の確率や期待値を求めることができる。	34
8			
9		独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率を求めることができる。	1
10	【前期期末考査】	【思】 事象の構造、確率の性質や法則に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	
11			
12			34
1	【後期中間考査】		
2	第2章 図形の性質	【知】 三角形・円・空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思】 図形の性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。	1
3			
	【後期期末考査】		
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1	年	理科	化学基礎	必修	2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
教材	リードlightノート化学基礎（数研出版）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができた。
思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけた。
主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組み、自ら学習を調整した。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	小テスト、実験操作、ワークシート、実験プリント、定期考査
思考・判断・表現	小テスト、ワークシート、実験プリント、定期考査
主体的に学習に取り組む態度	小テスト、ワークシート、提出物への取組状況、定期考査

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1節 物質の構成と化学結合 1 物質の構成	【知】・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。 【主】・身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ 【思】・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・単体と化合物の違いについて説明することができる。	8
5	2 物質の構成粒子		10
	[前期中間考査]		1
6		【知】・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。 【主】・各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。 【思】・原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。	11
7	3 粒子の結合		1
8	[前期期末考査]		1
9			
10	第2節 物質の変化 1 物質と化学反応式	【知】・それぞれの結合の種類について説明できる。 ・さまざまなイオン式や分子式、電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 【思】・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。 【主】・身のまわりの物質の結合の成り立ちについて興味を持つ。	10
11	[後期中間考査]		1
12	2 酸と塩基の反応		15
1			
2	[後期期末考査]	【知】・モルの概念を、質量や粒子数、体積と結びつけることができる。 【思】・原子量をもとに、化学反応の量的な関係を導くことができる。 【主】・化学反応が、化学反応式で表現できることがわかる。	1
3	3 酸化還元反応	【知】・酸や塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し、説明できる。 【思】・酸・塩基の性質をH ⁺ とOH ⁻ で考える方法と、H ⁺ の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。 【主】・酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。 【知】・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。 【思】・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。 【主】・酸化と還元が同時に起こることに気づく。	12
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1 年	理科	生物基礎	必履修	2
科目の目標	<p>①知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する</p> <p>②思考、判断、表現 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>				
教材	生物基礎（東京書籍）				
	リードLightノート 生物基礎（数研出版）				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
思考・判断・表現	・生物や生物現象についての知識を活用し、思考することができた。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につける。

(2) 評価方法

観 点	評価方法
知識・技能	定期考査、小テスト
思考・判断・表現	定期考査、小テスト、ワークシートの取り組み
主体的に学習に取り組む態度	ワークシートの取り組み、授業態度

3 履修上および学習上の注意

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATPの構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸 【前期中間考査】	(知) 生物がもつ多様性と共通性を理解している。 (知) 細胞のしくみや生物の構造を整理し、理解している。 (主) 細胞の観察手法や顕微鏡操作に主体性を持って理解しようと取り組み、実験結果を正しくまとめ、アウトプットしようとする。 (思) 脊椎動物に至るまでの進化の道筋と関連付けて考察できる。 (知) 代謝を正しく認識することができる。 (知) 植物にとって光エネルギーの持つ意味を正しく理解している。 (知) 生物が有機物を利用する意味と必要性、しくみを正しく理解している。	14
5	第2章 遺伝子とその働き 11 生物と遺伝情報 12 DNAの構造と遺伝情報 13 DNA複製 14 DNAと染色体 15 細胞周期とDNAの分配 16 細胞周期とDNA量の変化	(知) 生物学における遺伝子の正しい意味を認識することができる。 (主) 遺伝子本体の物質の解明に向けた先人の実験手法や結果に関心を持って理解しようとする。 (知) 遺伝情報をになう物質としてのDNAの特徴について理解している。 (知) DNAが複製され分配されることにより、増殖した細胞に遺伝情報が伝えられることを理解している。	13
6	17 遺伝子発現とタンパク質 18 転写と翻訳 19 遺伝暗号表 20 遺伝子発現と維持 【前期期末考査】	(知) 塩基配列がタンパク質の種類を指定するしくみを理解している。 (思) 遺伝子に関連する、SNS上などで拡散している情報について正しく認識することができる。	13
7	第3章 神経系・内分泌による調節 21 恒常性と体液 22 血液凝固と線溶 23 恒常性に関わる神経系 24 自律神経系と脳死 25 ホルモンによる調節 26 ホルモン分泌の調節 27 血糖濃度の変化と糖尿病 28 血糖濃度の調節のしくみ 29 体温と水分量の調節 【後期中間考査】	(知) 体内環境の恒常性が保たれるしくみを理解している。 (知) 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解している。 (知) 心拍数、体温、血糖量を調節することの必要性を正しく理解している。 (主) 自律神経系や内分泌系が、心拍数、体温、血糖量などを調節するしくみに関心を持って探究しようとする。	10
8	第4章 免疫 30 生体防御の概要 31 異物の侵入を阻止するしくみ 32 自然免疫のしくみ 33 獲得免疫の概要 34 細胞性免疫と体液性免疫 35 抗体とその利用 36 免疫記憶とその利用 37 免疫と病気① 38 免疫と病気②	(知) 免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解している。 (知) それぞれの免疫細胞の役割とそれらを制御するしくみを理解している。 (思) 予防接種をはじめとした免疫に関する医療技術やその諸問題に科学的な判断と考察ができる。	10
9	第5章 植生と遷移 39 環境と生物 40 光の強さと植物 41 森林の階層構造と土壌 42 遷移の過程 43 遷移に伴う環境の変化 44 遷移と世界のバイオーム 45 日本のバイオーム 【後期期末考査】	(知) 陸上には気象条件に適応した多様な植生が見られることを理解している。 (知) 植生は、植物自身が変成した環境に適応した結果、長期的に移り変わっていくことを理解している。 (主) 気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を整理しようとする。	10
10	第6章 生態系とその保全 46 生態系における生物の役割 47 種の多様性と食物連鎖 48 生態系と生態ピラミッド 49 キーストーン種と絶滅 50 生態系のバランスと変動 51 人間活動と生態系 52 生物濃縮 53 外来生物 54 生物多様性と生態系の保全 55 生態系と人間生活	(思) 生態系のバランスについての理解に基づき、生態系保全と人間生活の関わり的重要性を認識する。	10
11			
12			
1			
2			
3			
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必修修・選択	単位数
普通科	1 年	保体	体育	必修修	3
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>				
教材	<p>現代高等保健体育（大修館書店）</p>				
留意点				開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	<p>運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。</p>
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。</p>

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技テスト・ゲーム、ワークシート
思考・判断・表現	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと。・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。</p>
--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション		1
	1 「体づくり運動」	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上を目指し、取り組むことができる 【思】下記※1 参照	8
	2 「体育理論」	【学】下記※2 参照、話し合いに貢献しようとしている	3
5	3 「器械運動（マット運動）」 「陸上競技（走・投）」	「体育理論」 【知】スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】自主的に学習に取り組んでいる	14
6	4 「球技<ネット型>（バレーボール）」 「器械運動（マット運動）」	「器械運動（マット運動）」 【知】基本的な技や発展技を滑らかに安定して行うとともに、それらを構成し演技することができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、よい演技を讃えようとしている	14
7		「陸上競技（走・投）」 【知】記録の向上や競争の楽しさ・喜びを味わい、技術の行い方や体力の高め方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けている 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、ルール・マナーを大切にしている	
8	5 「陸上競技（走・投）」 「球技<ネット型>（バレーボール）」	「球技<ゴール型>」 【知】安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	14
9		「球技<ネット型>」 【知】役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	
10	6 「領域内選択（球技）」 ・<ゴール型>サッカー ・<ネット型>ソフトテニス ・<バレーボール型>ソフトボール	「球技<バレーボール型>」 【知】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている	12
	7 「武道（柔道）」 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」	「武道（柔道）」 【知】相手の動きの変化に応じた基本動作や基本技・連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照（特に攻防について） 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている	12
11		「ダンス」 【知】ダンスの楽しさや喜びを味わい、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現を通じた交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照（特に表現について） 【学】下記※2 参照、作品や発表などの話し合いに貢献している	
12	8 「球技<ゴール型>（バスケットボール）」 「ダンス」		12
1	9 「体育理論」	「スキー」 【知】技能の向上の楽しさ・喜びを味わうとともに、安定したスキー操作を実践することができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、スキー場のルール・マナーを大切にしている	3
2	10 「スキー」		12
3		※1 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 自主的に取り組んでいる、互いに助け合い教え合おうとしている、一人一人の違いに応じた動きや課題、挑戦などを大切にしている、健康・安全を確保している	
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1	年	保体	保健	必履修	1
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
教材	現代高等保健体育（大修館書店）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けているか。
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けているか。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト、ワークシート
思考・判断・表現	定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート、学習観察

3 履修上および学習上の注意

<p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・1単位科目のため欠課時数に留意すること。・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。・教科書は1、2年次の保健のみならず、1～3年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	オリエンテーション	「健康の考え方」 【知】国民の健康課題や健康の考え方が変わってきていること、健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している	1
	【現代社会と健康】		
	01 「健康の考え方と成り立ち」	【思】現代社会と健康における情報や事象について、整理したり個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している	2
	02 「私たちの健康のすがた」	【学】※1参照	
5	03 「生活習慣病の予防と回復」	「生活習慣病などの予防と回復」	4
	04 「がんの原因と予防」	【知】健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和の取れた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを、を理解している	
	05 「がんの治療と回復」	【思】自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスク軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している	
6	06 「運動と健康」	【学】※1参照	4
	07 「食事と健康」		
	08 「休養・睡眠と健康」		
7	09 「喫煙と健康」	「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」	4
	10 「飲酒と健康」	【知】喫煙と飲酒は生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えること、それらの対策には個人や社会環境への対策が必要で	
	11 「薬物乱用と健康」	【思】我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している	
		【学】※1参照	
8	【前期期末考査】		1
9	12 「精神疾患の特徴」	「精神疾患の予防と回復」	4
	13 「精神疾患の予防」	【知】精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活を実践すること及び心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要である	
	14 「精神疾患からの回復」	【思】習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している	
		【学】※1参照	
10	15 「現代の感染症」	「現代の感染症とその予防」	4
	16 「感染症の予防」	【知】感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられること、その予防には個人の取組及び社会的な対策が必要であることを、を理解している	
	17 「性感染症・エイズとその予防」	【思】感染症の発生や流行には違いがみられることについて整理し、感染のリスク軽減のための個人の取組及び社会的な対策に応用している	
		【学】※1参照	
11	18 「健康に関する意思決定・行動選択」		2
	19 「健康に関する環境づくり」		
12	【安全な社会生活】	「安全な社会づくり」	4
	01 「事故の現状と発生要因」	【知】環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを、交通事故の防止には車両の特性の理解・適切な行動・自他の生命を尊重する態度・交通環境の整備が	
1	02 「安全な社会の形成」	【思】様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している	
	03 「交通における安全」	【学】※1参照	
2	【後期期末考査】		1
	04 「応急手当の意義とその基本」	「応急手当」	4
3	05 「日常的な応急手当」	【知】適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい手順があること、応急手当は速やかに行う必要があること、を理解し、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる	
	06 「心肺蘇生法」	【思】習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾患に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している	
		【学】※1参照	
		※1 自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している	
			合計 35

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次	教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1 年	英語	英語コミュニケーションⅠ	必履修	3
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア：日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア：日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援があれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝え合えるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に伝えられるようにする。</p> <p>(5) 書くこと ア：日常的话题について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、論理的に文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、多くの支援があれば基本的な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に文章を書けるようにする。</p>				
教材	<p>LANDMARK Fit English Communication Ⅰ (啓林館)</p> <p>LANDMARK Fit English Ⅰ Workbook (啓林館)</p> <p>ターゲット1900 (旺文社)</p> <p>Focus on Listening Basic (エミル出版)</p>				
留意点				開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査・小テスト リスニングテスト 等
思考・判断・表現	定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等

3 履修上および学習上の注意

<p>・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。・この授業は習熟度別展開授業で実施されます。</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション	(使用教材や授業の進め方)	1
	Preparatory Lesson	(知) 自己紹介を英語でできる。 (思) 自己紹介で表現力を見せる。 (主) 相手が理解しやすいように自己紹介ができる。	5
	Lesson 1	(知) 不定詞や動名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
5	Lesson 2	(知) 現在完了や受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
	【前期中間考査】		1
6	Lesson 3	(知) 比較級・分詞・関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
7	Optional Reading 1 Communication in Practice 1		3 3
8	Lesson 4	(知) 関係代名詞や関係副詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
	【前期期末考査】		1 9
9	Lesson 5	(知) 原形不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
10	Lesson 6 Optional Reading 2 Communication in Practice 2	(知) that節や対比を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	3 3 3
11	【後期中間考査】		1
12	Lesson 7	(知) 分詞構文を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	10
1	Lesson 8	(知) 過去完了や仮定法を用いた文の用法を理解している。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	10
2	【後期期末考査】		1 9
3	Further Reading	(知) 比較的長い英文の内容を理解することができる。 (思) 自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1	年	英語	論理・表現Ⅰ	必修	3
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の3つの領域において言語活動及びこれらをつなぎ付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 話すこと [やり取り]</p> <p>ア：日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ：日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと [発表]</p> <p>ア：日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ：日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと</p> <p>ア：日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ：日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>					
教材	<p>BIG DIPPER English Logic and Expression Ⅰ (数研出版)</p> <p>BIG DIPPER English Logic and Expression Ⅰ ワークブック (数研出版)</p> <p>チャート式シリーズ BIG DIPPER ビッグ・ディッパー高校英語 (数研出版)</p>					
留意点					開講予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	定期考査、小テスト 等
思考・判断・表現	定期考査、ワークシート、パフォーマンステスト 等
主体的に学習に取り組む態度	学習観察、授業や課題への取り組み、提出物

3 履修上および学習上の注意

<p>・言語活動に取り組む態度を持ち、コミュニケーション能力の向上に努めてください。・英語コミュニケーションⅠと同様に、習熟度別展開授業を行い</p>

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	○オリエンテーション （使用教材や授業の進め方）		1
5	Lesson 1	(知) be動詞・一般動詞の現在形の特徴の知識や初対面のあいさつの技能があること。 (思) be動詞・一般動詞を用い、初対面のあいさつ・会話ができる。 (主) be動詞・一般動詞を用い、初対面のあいさつ・会話をしようとしている。	9
6	Lesson 2	(知) 動詞の過去形や進行形を使い、自分の学校や住んでいる地域のことを表現できる。 (思) 自分の学校や住んでいる地域のことを伝えることができる。 (主) 自分の学校や住んでいる地域のことを伝えようとしている。	9
7	Lesson 3	(知) 未来の表現の知識を使い、予定や自分の考えを伝えることができる。 (思) 未来の予定・自分の気持ちを相手が理解しやすく伝える。 (主) 未来の予定・自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	9
8	【前期中間考査】		1
9	Lesson 4	(知) 現在完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 現在完了を用いた文で自分のことを相手が理解しやすく伝える。 (主) 現在完了を用いた文で自分のことを相手が理解しやすく伝えようとしている。	10
10	Lesson 5	(知) 助動詞・受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 助動詞・受動態を用いた文で観光地への行き方を理解しやすく伝える。 (主) 助動詞・受動態を用いた文で観光地への行き方を理解しやすく伝えようとしている。	10
11	Lesson 6	(知) 不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 不定詞を用いた文で旅行中の出来事を相手が理解しやすく伝える。 (主) 不定詞を用いた文で旅行中の出来事を相手が理解しやすく伝えようとしている。	10
10	【前期末考査】		1
11	Lesson 7	(知) 動名詞・分詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 動名詞・分詞を用いた文でスポーツのことを相手に理解するように伝える。 (主) 動名詞・分詞を用いた文でスポーツのことを相手に理解するように伝えようとしている。	9
12	Lesson 8	(知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 賛成・反対を相手が理解しやすく伝える。 (主) 賛成・反対を相手に理解しやすく伝えようとしている。	1
1	【後期中間考査】		10
2	Lesson 9	(知) 関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 身体と健康について自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) 身体と健康の自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	1
3	Lesson 10	(知) 関係副詞や仮定法を用いた文の用法を理解している。 (思) SDGSの自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 (主) SDGSの自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。	5
	【後期末考査】		
	1年のまとめ		
			合計 105

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1	年	家庭	家庭基礎	必修	2
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す</p> <p>【知識・技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする</p> <p>【思考・判断・表現】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして生涯を見通して課題を解決する力を養う</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う</p>					
教材	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 家基701）					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技・提出作品・単元テスト
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・学習中の態度観察

3 履修上および学習上の注意

実習費3,000円徴収します

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 生涯を見通す	【知】人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している 【思】生涯を見通した自己の生活について考察し、表現できる 【関】生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている	3
5	第2章 人生をつくる	【知】青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している 【思】家族の一員として役割を果たし、家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に取り組んでいる	5
6			10
7	第7章 衣生活をつくる	【知】被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている 【思】被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について考察することができる 【関】衣生活と健康について、課題の解決に取り組んでいる	9
8			9
9	第9章 経済生活を営む	【知】家計の構造や生活の経済と社会の関わり、家計管理について理解している 【思】生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度と関連付け、問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】消費行動と意思決定について、課題の解決に取り組んでいる	2
10	第10章 持続可能な生活を営む	【知】生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解している 【思】持続可能な社会を目指して行動できるよう問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に取り組んでいる	9
11	第8章 住生活をつくる	【知】住生活の特徴、機能について理解し、計画・管理の技能を身に付けている 【思】住居の機能性や快適性について考察することができる 【関】住生活と住環境について、課題の解決に取り組んでいる	5
12	第3章 子どもと共に育つ	【知】幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる 【思】子どもを生み育てることの意義について考え、子どもの健やかな発達のために問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	17
1			6
2	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	【知】栄養の特徴や食品の特質、健康や環境、安全に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている 【思】食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察することができる 【関】食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	3
3	第4章 超高齢社会を共に生きる	【知】高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている 【思】高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	1
	第5章 共に生き、共に支える	【知】家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している 【思】家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に付けている 【関】よりよい社会の構築に向けて共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる	
	第11章 これからの生活を創造する	【知】人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している 【思】生涯を見通した自己の生活について考察し表現できる 【関】生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている	
			合計 70

令和7年度入学生	北海道留萌高等学校 授業シラバス
----------	------------------

1 科目の概要

学科	学年・年次		教科	科目	必修・必履修・選択	単位数
普通科	1	年	情報	情報Ⅰ	必履修	2
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>					
教材	最新情報Ⅰ 学習ノート (実教出版)					
留意点					開講予定 人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

(2) 評価方法

観点	評価方法
知識・技能	実技・テスト
思考・判断・表現	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	学習観察

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	評価の観点（観点別）	時数
4	第1章 情報社会と私たち	第1章	15
5	1節 情報社会	【知】 データ、情報、知識の意味と相互の関係、知的財産権の概要、POSシステム、電子マネー、電子決済の仕組み、人工知能、IoT、仮想現実や拡張現実についてそれぞれ説明することができる。	
6	2節 情報社会の法規と権利	【思】 情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。知的財産権が産業や文化の発展に与えている影響について説明することができる。	15
	3節 情報技術が築く新しい社会	【主】 ネット依存等、情報化が個人に及ぼす影響について考え、自らの情報活用について振り返り、改善方法しようとしている。問題を解決するために、知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画しようとしている。	
	第2章 メディアとデザイン	第2章	
7	1節 メディアとコミュニケーション	【知】 文字、図形、音声、静止画など各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性についてそれぞれ説明することができる。情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。	
8	2節 情報デザイン	【思】 伝達する情報に応じて適切に表現メディアや情報メディアを選択して表現することができる。	
9	3節 情報デザインの実践	【主】 情報をわかりやすく伝達するために、文字や図、表やグラフなどを工夫して表現する学習活動を自ら進んで行い、評価を受けて改善を図ろうとしている。	25
10	第3章 システムとデジタル化	第3章	
	1節 情報システムの構成	【知】 コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。2進数と情報量の関係について説明することができる。	
	2節 情報のデジタル化	【思】 コンピュータを構成する各装置の機能と相互の関係考え、適切に接続して動作させることができる。アナログとデジタルを比較し、その特徴を適切に説明できる。	
11	第4章 ネットワークとセキュリティ	【主】 コンピュータを構成する装置とその性能について興味・関心を示し、自分で調べようとしている。コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。	
12	1節 情報通信ネットワーク	第4章	
	2節 情報セキュリティ	【知】 通信方式の種類やその違いについて説明することができる。情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。	
	第5章 問題解決とその方法	【思】 目的に沿って、LANを構成する情報機器の接続を適切に考えることができる。ファイルのデータを効率的に圧縮して転送することができる。情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じて、アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択することができる。	
1	1節 問題解決	【主】 インターネットの仕組みやサービスに興味・関心を持ち、問題の解決に向けて、個人あるいはグループでネットワークの活用について検討しようとしている。マルウェアやサイバー犯罪の被害に遭わないように、リスクを軽減するための対策を継続して行おうとしている。	15
2	2節 データの活用	第5章	
3	3節 モデル化	【知】 問題や問題解決の意味、問題解決の手順について説明することができる。データの種類と尺度水準について理解し、収集したデータを整理することができる。モデル化およびシミュレーションの意味について説明することができる。	
	4節 シミュレーション	【思】 問題発見のための方法を考え、適切に選択できる。問題解決の目的や内容に適したデータを選択して収集する力がある。モデル化およびシミュレーションが、社会の問題解決に果たす役割について考え、事例を挙げて説明することができる。	
	第6章 アルゴリズムとプログラミング	【主】 問題解決の結果を振り返り、積極的に自己評価や相互評価を行い、改善を図ろうとしている。問題解決のためのデータ活用に関する取り組みを、データ分析の方法や分析結果の妥当性について、自己評価や相互評価で振り返り、改善しようとしている。	
	1節 プログラミングの方法	第6章	
	2節 プログラミングの実践	【知】 アルゴリズムとプログラムについてそれぞれ説明することができる	
		【思】 基本制御構造（順次・選択・反復）を適切に用いて、簡単なアルゴリズムを表現できる。	
		【主】 問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。	
			合計
			70